

平成 2 9 年度

第 2 回宮崎市総合教育会議

会 議 録

平成29年度 第2回宮崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成30年2月22日(木) 14:00～15:30
- 2 場 所 宮崎市役所本庁舎4階 特別会議室
- 3 出席者 戸敷市長

【教育委員会】

二見教育長、松野代表教育委員、畠山委員、江草委員、柳田委員

【オブザーバー】

高島福祉部長、川辺保育幼稚園課長

【事務局】

小泉教育局長

河野企画財政部長

(企画総務課) 本村課長、山本補佐、鍋島主幹、田中主査

(学校施設課) 佐土課長

(学校教育課) 松竹課長

(教育情報研修センター) 荒武所長

(生涯学習課) 染矢課長

(保健給食課) 横山課長

(文化財課) 羽木本課長

(企画政策課) 河邊主査

- 4 傍聴者 1名
- 5 意見交換
 - (1) 「第二次宮崎市教育大綱の策定について」
 - (2) 「いじめストップ推進事業の取組について」

小泉教育局長	<p>ただいまから、平成29年度第2回宮崎市総合教育会議を始めさせていただきます。はじめに、戸敷市長からご挨拶をお願いいたします。</p>
戸敷市長	<p>お忙しい中お越しいたきまして、感謝申し上げます。</p> <p>昨年8月に開催いたしました教育行政の具体的な取組、これを反映した点においても、今後皆さんの意見をお聞きしながら対応してまいります。また、教育行政という大事なところを、今後も教育委員会の皆様、そしてあらゆる機関からも色々な意見を聞いてしっかりと対応するということが、宮崎の将来の子どもの育成、社会教育、生涯教育にも繋がっていくと考えておりますので、ぜひともご協力とご指導を賜りたいと思います。</p> <p>今回の選挙で公約として4つの大きな柱を掲げましたが、その中から、4月からスタートいたします第五次宮崎市総合計画、この前期計画と地方創生総合戦略、この2つを念頭において政策に繋げてまいりたいと考えているところです。</p> <p>大都市にはない宮崎の良さには「食」「スポーツ」「花」「神話」があり、この4つを宮崎らしさとして話をしていますが、色々な知恵を出しながら、またノウハウを共有しながら総合力を高めていくということを考えていかなければいけないのではないかと思います。このことによって、宮崎に人が流れてくる、あるいは宮崎の色々なオンリーワンのものがアピールできるということにつながり、自立性の高い「まち」になっていくのではないかと考えているところです。</p> <p>さらに、第五次宮崎市総合計画においては、部局横断的に戦略プロジェクトを設け、重点的に取り組むこととしています。その中にある「みやざきっ子の育成」は以前から掲げているものですが、子育て推進プロジェクトを5つの戦略プロジェクトの中の1項目に挙げております。</p> <p>キャリア教育の推進や新規就農者の育成、複雑多様化する地域課題の解決のため担い手を育てる、これが人材の育成ではないかと考えておまして、まちづくりはまさにひとづくりであると考えているところです。</p> <p>今後も地域の宝であります子どもをどのようにして地域に愛着や誇りをもつ人材として育てていくか。また、どのようにして豊かな感性と社会に貢献できる力をもてるようにしていくかを考えていかなければいけないと思っています。本市のまちづくりの原動力となるひとづくりというものを、しっかりと教育の中で確立できればと考えております。今回の総合教育会議では、市全般の教育行政の柱である人材育成の全庁的な指針となる教育大綱について提案させていただきますので、委員の皆様の意見を賜り、方向性を共有していきたいと思っています。</p> <p>「市民目線」「現場主義」ということをいつも申し上げています。これを私どもの取組の念頭において、柱として位置付けながら、しっかりと地方創生に取り組むことが、これから10年後、20年後にもつながり、しっかりとしたまちづくりが継承できるのではないかと考えています。</p> <p>目的は「とことん生活しやすいまちづくり」ですが、このことを基本において実行していきたいと考えておりますし、それを力強く発信する「まち」につながっていければと考えております。皆様と共有す</p>

	<p>る部分も多々あろうかと思えますし、また指導いただいて、私自身も感覚を変えないといけないところもあると思えます。今回の意見も集約をしながら将来に活かすまちづくりにしていきたいと思えます。</p> <p>どうぞよろしく願い申し上げます。</p>
小泉教育局長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、二見教育長がご挨拶いたします。</p>
二見教育長	<p>本年度2回目の総合教育会議を開催いただき、感謝申し上げます。</p> <p>8月に続いて、今回も市長とこうして意見を交えられる機会をいただいたことは、市長の教育行政への深いご理解と、みやぎっ子の育成に対する強い思いの表れであるところにおります者一同、心強く感じております。</p> <p>教育委員会といたしましても、教育のあるべき姿や学校現場が抱える課題について、市長と意見を交わし、お互いの思いを共有できることは、教育行政をより一層推進させる、大きな原動力となると確信をしております。</p> <p>松野代表教育委員をはじめ、教育委員の皆さんには、「みやぎっ子」の育成のため、会議も多いですので昼夜を問わずというのがあたっていると思えますが、ご尽力いただいております。昨年8月には、本市で九州地区の市町村教育委員会連合会総会・研修大会を開催いただき、九州地区全体の教育行政の発展にご尽力いただいたところであり、松野代表教育委員には、九州地区の会長としての役目も果たしていただいたところでございます。</p> <p>今の時代は、めまぐるしいスピードでもたらされる技術革新によって、産業をはじめとする社会が急激に変化しており、将来の正確な予測が困難になりつつあることから、今の子どもたちは、これまで以上に早い段階から、地域や社会に目を向け、そして自分の人生としっかり向き合い、たくましく生き抜いていかなければならないと思えます。</p> <p>さらに、子どもたちは、その半数が100歳まで生きると言われております。その長い人生を、実り豊かなものにするための教育の役割の重要性が、ますます高まっていると感じております。</p> <p>市長は常に、まちづくりはひとつづくりであるとおっしゃっておりますが、次のまちづくりの基本となる第五次宮崎市総合計画でも、将来の担い手となる人材の育成が、本市の躍進には不可欠であると示されております。部局の垣根を越えて、戦略的にまちづくり・ひとつづくりに取り組んでいくという強い思いを感じております。</p> <p>私たちも、本市を思い支える人材を育てる役割と責任をこれまで以上に感じております。教育行政の基本となるビジョンをしっかりと定めて、教育行政の充実に取り組んでいく所存でございます。</p> <p>市長と再びこうやって意見交換ができるこの機会に感謝しますとともに、活発な意見交換をさせていただき、将来の本市の躍進につながる教育行政の方向性を構築していきたいと考えます。</p> <p>市長は本市の強みは「食」「スポーツ」「花」「神話」と4つおっしゃいましたが、それに加えて「人」と自信をもって入れられるよう、子どもたちを送りたいな、育てたいなとあらためて感じたところであり、</p> <p>今日はどうぞよろしく願い申し上げます。</p>
小泉教育局長	<p>ありがとうございました。それでは、まずはじめに本日の日程等について説明いたします。本日はお手元にお配りしております会次第に</p>

	<p>沿って、15時30分までの約1時間半、市長、教育長、教育委員の6名によりまして協議および報告を行う予定にしております。</p> <p>なお、本日は福祉部長、保育幼稚園課長がオブザーバーとして同席しております。</p> <p>それでは、会次第に沿って進行させていただきます。ここからの進行につきましては、戸敷市長にお願いしたいと思います。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p>
戸敷市長	<p>それでは、私の方で進行させていただきます。</p> <p>まずはじめに、「第二次宮崎市教育大綱の策定について」でございます。大綱は、市全般の教育行政の柱でございますので、法の趣旨に沿って、私が策定するということになっております。</p> <p>皆さんのお手元に配付しておりますが、私の考える第二次宮崎市教育大綱案でございますので、この後、私の意見を述べさせていただきますが、まず、この大綱の素案について事務局から説明をさせていただきますと思います。</p>
本村企画総務課長	<p>資料は配付資料1でございます。</p> <p>まず、教育大綱の策定に関しましては、法律により市長が策定するよう義務付けられております。教育委員会が教育大綱の素案を作成したのは、宮崎市長の権限に属する事務の補助執行規程第2条第1号におきまして、教育大綱の策定については、教育委員会にその事務を補助執行させるという規定に基づくものでございます。</p> <p>教育大綱のスタイルや内容につきましては、法律などによって定められたものがあるわけではございません。各自治体の判断に任されております。</p> <p>本市の現行の教育大綱は約2年前、平成28年1月に策定しております。この時の考え方としまして、教育委員会が策定する教育ビジョンの基本理念と基本目標を、大綱の中でも核として位置付けることとしておりました。</p> <p>今回の第二次宮崎市教育大綱の素案の策定に当たっては、その考え方を維持しながら、第五次宮崎市総合計画との整合性を踏まえたいうえで、今年度策定する第二次宮崎市教育ビジョンの基本理念と3つの基本目標を核として、策定することとしております。</p> <p>次に、お手元の教育大綱（案）1ページをご覧ください。</p> <p>まず、「はじめに」でございますが、ここには大綱策定にあたっての市長の思いを載せております。</p> <p>2ページの「策定の趣旨」には、大綱策定の法的な根拠について記載しております。</p> <p>また、「位置付け」には、第五次宮崎市総合計画に関することや、3段落目にありますように、大綱は教育ビジョン及びその他の分野での教育に関する施策の総合的な基本指針となることを明記しております。</p> <p>そして「策定の基本的な考え方」の部分でございます。総合計画（前期基本計画）において設定しております戦略プロジェクトが、人材育成に力点をおいて取り組むこととされていることから、教育ビジョンに掲げる基本理念や基本目標を大綱の核とする旨を示しております。</p> <p>3ページでございます。3ページには「大綱の期間」、「大綱の推進体制」、「大綱の見直し」について載せております。大綱の対象期間につきましては、総合計画および教育ビジョンの策定期間と合わせるものとしております。</p>

	<p>4 ページからは、市の教育行政の方向性を載せております。</p> <p>まず、基本理念につきましては、現行の大綱の理念を変更せずに、継承していくものでございます。前段部分の「宮崎で育ち、学ぶことを通して、郷土に誇りと愛着をもつ、感性豊かな「みやざきっ子」の育成」、これが教育ビジョンの基本理念でもございますが、大綱ではさらに、「一人一人の個性を重んじつつ、知・徳・体の調和がとれ、自分の夢や希望に向かって主体的に行動できる人財を育てます。」という表現を加えております。</p> <p>続いて、大綱の具体的な柱となる「目指す方向性」についてでございますが、第二次教育ビジョンに掲げます3つの基本目標を踏まえ、5ページまでの3つの方向性として示しております。</p> <p>市長部局を含め、本市のあらゆる分野で取り組みます教育関連施策の総合的な指針という視点でタイトルやその概略説明、重点施策をまとめております。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
戸敷市長	<p>説明は以上のとおりでございますが、私の方で若干補足をさせていただこうと思います。</p> <p>策定の趣旨等については説明のとおりでございますが、やはり10年先、20年先、この宮崎で活躍していただける、宝である人材をどのように磨いていくか、または子どもがどのように指導していかれるかが重要な柱になると考えています。</p> <p>このことから、総合計画の前期計画では、分野を超えて横断的に課題解決に取り組むため、5つの戦略プロジェクトを設定して重点的に取組を進めることとしていますが、取組にあたっては将来を担う人材の育成に力点を置いております。</p> <p>特に「子ども・子育て推進プロジェクト」では、重要施策として「次代を生き抜く感性豊かな子どもの育成」を掲げております。この重要施策は、教育ビジョンにも掲げる基本理念、それから3つの基本目標と密接に関係しておりますので、教育行政の流れの中の重要な柱となっていると考えております。</p> <p>それではこの3つの方向性について触れていきたいと思っております。</p> <p>目指す方向性の1つ目は、「未来をたくましく生き抜いていく力の育成」としました。学力テストの結果が優れていればよいということではなく、「知」「徳」「体」のバランスが取れている「みやざきっ子」を育てることが、教育の本質ではないかと考えています。</p> <p>現在、教育委員会で取り組んでいる学力向上対策やいじめの未然防止、不登校児童生徒対策、子どもの健康体力の保持増進などの施策をさらに推進することが、本市の教育行政の未来につながっていくものと考えているところでございます。</p> <p>特に、善悪の判断や社会のルール、マナー、といった道徳性を養うことは、家庭での教育が出発点だと思いますが、学校においても、集団生活を通して、他人の考えを理解し、尊重するといったことを、しっかり教えていかなければならないと考えております。</p> <p>今回、私はトップマニフェストの1つとして、全25中学校に外国語指導助手を配置するという公約を掲げました。英語による実践的なコミュニケーション能力の向上に努め、豊かな国際感覚をもち、国際社会で活躍できる人材を育成することを目的として公約に掲げているわけでございます。将来的には、私どものこの宮崎がインバウンド、それから海外との交流で、オリンピック、パラリンピック、さらには</p>

その後の色々な国際的な繋がりがでてくる中で、ぜひとも必要ではないかと、この重点的な流れをつけたところです。

2つ目の目指す方向として、「楽しみながら学べる環境の充実」としました。

教育の拠点であります学校でございますが、安全で安心して学べる場として整えることが大事だと思っております。

また、学校以外の学びの場である、放課後児童クラブや図書館、科学技術館のような施設で、市民のニーズに合った企画や展示、講座を行って知的好奇心を高めたり、郷土愛を高められるような仕掛けをしていくような流れも重要だと考えております。

特に、自分の住む地域の歴史や偉人、文化財を知ることによって、地域に誇りを感じ、それを支えていこうという気持ちをもつようになるのではないかと思います。今後も、偉人等を含めて歴史は大事にしていけないといけないと思います。特にいつも申し上げていることですが、神武天皇は宮崎でお生まれになって、初代天皇になられた方ということを考えますと、私どもは文化という中で、歴史における皇室という部分、これは宗教ではないと思いますが、そのことを誇りに思えるような宮崎人でないといけないと思います。そういう歴史も知らないといけないのではないかと思います。今、檜原市と交流をしています。神武天皇が奈良まで行かれたという東征について、世界遺産にしたい、また、日本文化遺産にもっていこうという動きもしているところです。世界遺産はちょっと先取りしましたけれど、日本の文化という部分でしっかりと国に指定をいただこうという動きもしているところでございます。

そういう意味で私は今回、子ども・子育てを推進するために、マニフェストとして3つ掲げておまして、待機児童ゼロ、児童クラブの定員拡大、小・中学校のトイレ・エアコンの整備促進の3つでございます。これは学びの場であるとか、また受入れをする施設、組織などの「子育て支援の充実」を掲げていかなければならない状況であるという思いで挙げたところでございます。

大綱にもしっかりと「(1)子どもが安全で安心して活動できる居場所づくり」という重点施策を掲げているため、新たに重点施策の設定はせず、マニフェストの内容は、ここに位置付けたいと思っております。

目指す方向性の3つ目は、「子どもを見守り、育む環境の充実」といたしました。「子どもは地域の宝」とよく言われますが、地域、家庭、そして学校、関係機関や団体など、社会全体が一体となってスクラムを組んで、あらゆる地域資源を活用しながら、子どもを見守り、育てていくことが大事だと思っております。

子どもたちに関わってもらい親、地域の大人、関係機関や団体の皆さんが協力して、今の子どもたちの現状や心の悩みをしっかりと把握し、受入れ、将来を見据えて子どもと接することで、子どもたちの社会性が育まれ、地域への感謝の心をもってその大切さを理解するとともに、将来、地域社会の中で自分の役割を果たして、自分らしい生き方を実現するための力や職業観を自ら身に付けることができるようになると考えております。

このため、総合計画前期基本計画の戦略プロジェクトにおきましては、「クリエイティブシティ推進プロジェクト」において、地域に新たな雇用を生む、ビジネスチャンスを作る、多様な働き方や雇用環境

の改善を促すということを考えておりました、地域と連携した特色あるキャリア教育を推進してまいりたいと考えております。

このことから、目指す方向性の3つ目に、新たな重点施策として、「地域の特色を生かしたキャリア教育の充実」を加えたところがございます。

また、重点施策の(5)として、「自然災害に対する高い意識の育成と実践的な防災力の定着」を追加していますが、南海トラフ対策として、自分の身は自分で守るという意識の育成とその応用が必要だと考えておりますので、しっかりと自然と向き合いながら、地域と自分の命を守るということについて充実していきたいと思っております。

このことから、現行の大綱の目指す方向性の4つ目から、目指す方向性の3つ目の重点施策に移して、地域・家庭・学校が一緒に育てるという視点で施策を進めてまいりたいと考えております。

地域には退職し子育ても一段落し、余裕のある方、知識をもっている方、得意分野をもったシニア世代がたくさんいらっしゃると思います。この方々の知恵と技を活かして、感性豊かな方向性を見出していただけないかとも思っているところです。

特にシニア世代の、子どもを育てるという部分が生きがい対策にも繋がっていけば、さらに充実感が出てくるのではないかと考えております。宮崎市のシニア世代の方々が、総合計画や地方創生、これらの推進にも重要な役割をもつ人材でもあると私は認識しているところでございます。

この大綱は、今、市の教育行政に何を求めるか、何が求められているか、策定の核となる教育ビジョンの策定の中でも検討していかないといけないと考えております。

その結果、将来を見据えた宮崎市に合った大綱が出来上がったと思っておりますので、本日もご提案させていただいたところでございます。

総合教育会議ということで、教育委員会と十分協議することとなっておりますので、忌憚のないご意見をお聞かせいただければありがたいと思っております。

以上で説明は終わりますが、教育長、委員の皆さんからのご意見を賜りたいと思います。よろしくご意見申し上げます。

まず、教育長お願いします。

二見教育長

先日、市長が記者会見された予算の案の発表の中にALTの5人増ということを示していただきましたので、嬉しくてたまりませんでした。

これまでの会議でも、今学校が何を求めているのかといったことを、機会があるごとにお話をさせていただいたからこそ、こうやってひとつひとつ実現していくのだということを改めて感じたところがあります。

私の方から、今、市長からご提案をいただきましたことについて感想も含めて話させていただこうかと思っております。

2年前に今の案が策定されたときには、教育大綱がどういう位置付けなのかということが全国的にもなかなか定まったものがなく、各自治体で判断してやりなさいということでした。

市長から、ビジョンを基本にしますという根底の考えを示していただいて、私としても安心して、我々の描くビジョンプラス、市長が何

を横断的に加えていただけるのか、そんな思いで前回の大綱策定時の会議に出たことを思い出しております。

どちらかという私たちは、預かった子どもをどう育てるかというイメージが強い機関ですけれども、市長の市政運営における教育の捉え方をお聞きする機会でもあり、また、いつも分野の垣根を超えたストーリーをおもちであると思っております。

具体的には、豊かな国際感覚をもった子どもたちの育成について、学習指導要領では、外国語科が入るから子どもたちにこんな力をつけたいという思いはありますけれども、やはり市の観光について、外国からの誘客を図るといった総合的なイメージの中で国際感覚をもつ子どもの育成というのは大事だということを入れていただいたのだろうと思っています。そういう意味で、分野の垣根を越えた描かれるストーリーをおもちだと感じたところであります。

教育行政を進めるにあたりましては、教育委員会では、教育ビジョンをその基本としております。バイブルとっていいと思っておりますが、教育振興基本計画のことを教育ビジョンと呼んでおります。

今回も、市長から、大綱は、この教育ビジョンを柱にしたいとおっしゃっていただいたことが、私どもにとりまして、これまでの方向性を大事にさせていただいたということで、感謝しております。

拝見させていただき、「はじめに」の部分で、本市の良さを活かしたまちづくりを進めるために、教育委員会として、どんなことを考えて、教育行政の施策を構築し、どのように施策を進めていけばいいのか、市民の方にもはっきりと示せるものであると思えました。

私たち教育委員会が中心となって、宮崎を愛し宮崎のために活躍したいと思うような人材を、全市で育てていくことが大事だということも改めて認識したところであります。

4月から、第五次宮崎市総合計画がスタートするということで、それと整合させながら、第二次宮崎市教育ビジョンの策定も進めてまいりました。第二次宮崎市教育ビジョンの表現は教育委員会の施策をまとめたものでありますが、第二次宮崎市教育大綱の策定にあたっては、市長から、教育ビジョンの考え方を柱にということを示していただきましたので、本日はその具体的な形として示されました「第二次宮崎市教育大綱」を見ているわけではありますが、市長の思いがどんな形で表現されるのか、教育委員会としても待ち望んでいたところであります。

基本理念、3つの目指す方向性について、そこには、関連する市長部局の所管する施策を念頭に置きながら作成されており、市長の思いが十分に伝わっていると感じております。

まず目指す方向性の1つ目では、市長のおっしゃるとおり、「知」「徳」「体」のバランスの取れた教育が大切であると思えます。こういう切り口を見るだけで、人は総合力だと思えます。これからはより、他の人の心情や文化の違いを理解し、豊かな国際感覚を身に付けた子どもの育成が求められることとなります。このことは将来の社会を支える人材育成につながるものであると考えております。

方向性の2つ目では、学校といいますと、確かな学力や心身の健全な育成ができる環境が整っていることが非常に重要であります。図書館や科学技術館、大淀川学習館などの施設は、子どもだけではなく多くの市民が利用する施設です。従いまして、市民のニーズにあった図書を選定や、利用が困難な方でも利用できるような工夫であったり、

各世代のニーズに合ったプログラムの提供、魅力的な企画を立案していくことなどが大事になると思っております。

また、放課後児童クラブについては、市全体で考えますと、保護者の就業支援やワーク・ライフ・バランスを支援する施策として必要と考えますが、教育委員会におきましては、放課後に児童を安全で安心して見守る場所として、どうしても必要であると考えております。保護者の帰りを待っている間に、学校で学習した内容を復習する時間としての活用ができているようでもあります。今後も市民の皆様のお力を借りながら、ニーズにあった施設の活用を考えなければならないと思っております。本当に、早くゼロにしたいと思っております。

目指す方向性の3つ目では、子どもたちを見守っていただける、支えてくださる保護者であったり、地域の大人であったり、地域の団体が一緒になって協力し、子育てはもちろん、防災や環境保護、地域福祉などに関する教育をしていくことが大事だと思います。

市長からお話がありましたシニア世代よる支援の仕組みが出来上がっていくと、新しい施策の構築も可能になっていくのではないかと思っております。

実際には延岡市が取り組んでいる学校支援の「はげまし隊」が1番話題になっておりますが、宮崎市でも、実際は10名を超える方々が、まだ特定の学校ですが、毎日入れ替わりで子どもたちの学習支援をしていただいているところもあります。その皆さんからも、まだまだ自分たちはやれるので、これを広げていきたいとおっしゃっていただいています。まさに市民総力戦で子どもたちを育てるという空気が宮崎にはあると思っております。私たちの工夫のしどころだと思っております。

そのためには、今後、将来の宮崎市を担う子どもたちを育てるための保護者向け研修や社会教育団体等向けの研修であったり、シニア世代向けの研修であったり、それが効率的にできるようなプログラムも構築する必要があると思っております。

教育委員会が主として策定に関わっています教育ビジョンに示していることとはいえ、市長の策定される大綱という位置付けにもなっていますので、大綱に書かれた内容については、教育委員会としても、市長部局はもちろんのこと、その関係機関・団体等としっかり連携しながら、推進していくことを改めて決意したところでございます。

戸敷市長

ありがとうございました。それでは今教育長も申されたとおり、3つの項目について委員さんが考えられた思いを聞かせていただくとありがたいと思います。

いかがでしょうか。

松野先生、お願いします。

松野代表教育委員

先ほど市長さんから素晴らしいお考えを伺いまして、特に第二次宮崎市教育ビジョンをととても大事にしているということがとても強く印象に残りました。

まちづくりは人づくりであるということや、地域の課題は地域で解決していくということ、市民が主役の市民のためのまちづくりであるということ、よく市長は色々なところでお話をいただいています。今の子どもたち世代も、これから中年、高齢者になっていくわけですけれども、ゆくゆくは育っていく子どもたちにこの気持ちが伝わり、必ずその段階で力が生きてくるのではないかという気がします。本当にありがたく思っております。

	<p>昨年、いじめストップ推進事業に関わる生目小学校での授業を見させていただきました。小学校4年生でしたけれども、本当に感動いたしました。ちょうど大変残念な中学生の事例が起こった後でございましたので、何とか市町村教育委員会連合会の中でも、メンバー同士で予算化できないものだろうか、専門家の方をお呼びしてそういう話をさせていただくとか、あるいは実際にやってみることができないのかということについて話をしていたような状況でございました。議会でちょうどその場面を見ておりました、正直申し上げまして良かったなと、こういう形で市長から支援をしていただいたと言いましょか、大変心強く思ったところでございます。</p> <p>具体的に色々ございますけれども、私どももさらに力を尽くす、そういうファイトが沸いてきたという感じでございます。</p>
戸敷市長	<p>ありがとうございます。他にございますか。</p> <p>やっぱり教育というのは手抜きはできないところですね。手を抜いた分は後継者の育成、次世代につけが回るという状況です。全力であった成果は必ず将来にわたって継続性と発展性も見える形につながると思っています。今、教育大綱もでき、教育ビジョンを作り、総合計画もスタートする。そういった中で皆さんと方向性を共有し、取組を進めていくことが大人の役目でもあり、社会全体の役目でもあると考えています。</p> <p>忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。</p>
江草委員	<p>教育委員として1年少し経ちますが、このように教育大綱があるということを経験して初めて知りました。細かくこのような形で作られていて、市長の考えなどが書かれてあるのを読ませていただいて、子どもを今学校へ通わせているので、保護者を代表してとてもありがたく感じております。子どもは地域の宝と言われるので、現行の大綱と読み比べたときに、今までは「学校・家庭・地域」と書いてあったものが、地域・家庭・学校となっているので、地域に力を入れていってほしい、まちづくりとして子どもを育てているということを出してほしいと感じました。</p>
戸敷市長	<p>現場からはそのように見られているということですね。</p> <p>柳田先生いかがですか。</p>
柳田委員	<p>大事なのは基本理念だと思います。私の立場はカウンセラーでありますが、主体的に考えて行動できるようになるということに尽きると思います。教育ですから目的がある行為である訳ですが、最終的にはその子自身が自分で考えてなおかつ行動することが大事なのかなと思います。いろんなことを考えて、自分自身が判断して行動に移すことができるような教育をしていく。言葉で言うのは簡単ですが、実際現場でやっていくのはすごく難しいことかなと思います。一方的に叩き込めばいいということでもないですし、曲目のようにプログラムの教え込んでいくものでもありません。そういう意味で、先ほどいじめ防止のワークショップの話も松野代表教育委員からありましたが、体験させながら、なおかつ自分で考えていくような場面、そういう体験ということがすごく大事になると思います。そういう意味で大人、学校の先生たちの関わり方というのは、さらに勉強して、授業での関わり方、進め方を考えていかないと、なかなかこの理念に基づいた教育というものには辿り着かないのではないかと思います。そういう意味での難しさ、厳しさというのもあると感じました。</p> <p>子どもに対して教育サービスという言葉もありますが、何かをして</p>

	<p>あげるといよりも、子どもたちが体験して考える機会を、時間的にも予算的にも限りはあると思いますが、そういうことをどれだけ子どもたちに提供していけるのか、それが私たち大人の役割なのかなと思います。</p> <p>カウンセラーとしていろいろな方々、これは大人も子どもも限らずですけれども関わってきて思うのが、たくましく生き抜いていく力という方向性がありますけれども、今つまづいている人がどういう状況かという、考える力が弱まっている状態だと思います。考えることができれば、色々なことをクリアして、多くの人からのサポートも受けながら切り抜けていけるのですが、それができず、たくましが減退している人は考える部分が著しく落ちているのだと思います。</p> <p>この理念に基づいて子どもたちが自分で考えて判断し、個として自分自身の力を作り上げていくような教育は、とても大事だと強く思いました。</p>
戸敷市長	<p>考え、行動し、それからまたフィードバックしていくことを繰り返す、自分を高めていく。本当に自立をする子どもをいかに育てていくかということが大切だと思います。宮崎に誇りをもって行動してくれるとか、宮崎を発信していただけるとか、そういう人材を育成することが本当に求められていると思います。</p> <p>個の力というものが集団の力になり宮崎の力になるのですから、最も根本になる教育を大事にしていけないといけないという思いを常にもっています。</p>
柳田委員	先生たちは大変だと思います。
戸敷市長	そういう意味で、誇りをもつ伝統文化を仕事とされています畠山さん、いかがですか。
畠山委員	<p>自分がやりたいことが仕事になっているということのありがたさや、それをふるさとの宮崎でできる幸せな自分を感じています。</p> <p>先ほどもふるさとに感謝をという言葉がありましたけれども、まさしく私のこの伝統音楽の活動を、地方の宮崎でできるということは本当にありがたいことだと思っています。勉強を一生懸命したわけではないのです。学力が高かったわけではないのです。でも学校に行くのが楽しくて、そしてちょっとお腹が痛くて学校を休むと、友達がノートをまとめてくれて教えてくれたり。そういう友達とのやり取りや、先生がちょっとした変化に気付いてくれたことなど、思い起こせば自分の子ども時代にも色々あるのですけれども。</p> <p>学校支援訪問にも行かせていただいています。子どもたちの笑顔と、なかにはちょっと気になる表情の子どももいたり、でも先生方がそういう子どもの変化にいち早く気付かれて、そして色々な工夫で子どもたちに寄り添っておられることを感じます。宮崎の小・中学校を回らせていただきながら、もう1回学生をさせてもらえるならもっと活躍できるのに、と思うくらいの、そういう学校教育になっていると思います。</p> <p>市長もお忙しいと思いますが、是非学校に足を運ばれて、プライベートで行かれることもあるかもしれませんが、学校に行くと、子どもたちから元気をいっぱいもらいます。教えてもらうことがいっぱいあります。私たちは今子どもたちのために一生懸命考えて努力しようとしています。子どもたちからいっぱいもらっていることがあるような気がします。</p> <p>今日市長の後ろにポスターが貼ってありますけれども、ああいう</p>

	<p>子どもたちの素直な作品や言葉をはじめ、歌声や校内放送で朝から子どもたちが英語で放送したり、自分と常に比較して見ていますと、色々な新鮮さを感じます。</p> <p>豊かな国際感覚をもつ子どもの育成ということが、目指す方向性としてありますけれども、言葉のコミュニケーションをはじめ、言葉だけではなく表情であったり人と関わることであったり、色々なコミュニケーションがあります。集団の中であること、自分の伝えたいこと、伝えられることが学校、地域、社会、そして学校だけではなく、生まれる前、お腹の中に命を授かった頃に遡ればますます手厚い宮崎であって欲しいと願うばかりです。ふるさとが宮崎で良かったと思うことがたくさんあります。</p>
戸敷市長	<p>確かに、子どもから学ぶということも教育では大事かもしれませんが。もう一度、自分たちが作った学校、カリキュラム、授業のあり方は大事にしないといけないけれど、子どもからも学んで改善し、成果を出していくのも大事かもしれません。</p> <p>自らがやりたいことをどのように表現をしていくかということが大事です。子どもの育成というのは独自性があって、金太郎飴じゃない人材育成が社会では求められています。そこらあたりについて、私どもも個々に応じた教育のあり方というのを全てできるかといったら難しいかもしれませんが、望んでいかないといけないだろうと思います。</p> <p>地域に根ざした活動をすることによって、宮崎に誇りをもって宮崎に定着をしていただく、地方創生の人口減少社会に対する流れになるのかもしれませんが。そのことを大事にしていきたいと思っています。</p> <p>いろんな意見を聞かせていただきましたが、松野先生何かまた追加があればお願いします。</p>
松野代表教育委員	<p>国際理解教育の充実という施策を新たな宮崎市教育ビジョンに入れていただいて大変ありがたいと思っています。もちろんキャリア教育の充実も入れていただきました。</p> <p>私は、国際理解教育の充実と聞いてパッと思い浮かんだのは、今平昌オリンピックがっていますが、スピードスケートの小平選手です。韓国の選手が1位を取るだろうと、ほとんどの方が思っていたのに、小平選手が優勝して金メダルを取りました。あその後すぐに韓国の選手に励ましに行ったり、応援席の近くを通過して歓声が上がる時に、静かにというジェスチャーをしました。気持ちは嬉しいけど、私だけ喜ぶわけにはいかないのだと。次の組がスタートするからと、そういう態度を取られた。あの姿はまさに日本の誇りだと思います。レース後に肩を抱き合う。普通だと、日本人はできない。心の中ではやりたいけどできない。それをああやってされたというのは大変感銘を受けました。国際理解教育の充実を図るうえで、オリンピックでのこういった配慮といったものを、学校の先生方はいいい意味でどどん話して欲しいと思います。あの素晴らしい場面はやはりもっと胸を張っていいのではないかと考えました。</p>
戸敷市長	<p>大事なことですよ。そういった思いやりとか日本人らしさという部分の流れをしっかりと、国際的な場に出すというのは大事なことでないでしょうか。</p> <p>そういう育て方をしないとけないということですよ。あらゆる場面というのが日本だけじゃないですから。今後外国から、ワールドカップのキャンプなどで宮崎に来られます。今年は東京オリンピック</p>

	<p>の事前キャンプとして、ドイツ陸連が本市にやってきます。来年、再来年と大きな国際大会があるスポーツ関係ですが、触れ合う機会、学ぶ機会が宮崎であるわけです。</p> <p>そういう部分では子育て世代としてはしっかりと感性をもった子どもを育てないといけないのですが、国際感覚をもった子どもを育てないと今は難しいというのが現実です。平成32年には外国語科が必修となるので、積極的に展開するというのは大事だと思っています。他にはございませんか。</p>
二見教育長	<p>教育は手を抜いたら、後で困るというお話を市長がされましたけど、私も同じような思いであります。</p> <p>適時性という言葉があります。成長過程の子どもたちですから、あるというふうに言われますし、もちろんあります。例えば長寿支援課と連携して認知症サポーターを養成していますが、小学5年生以上が中学3年生まで、全員オレンジリングを持つ日があと何年かしたらきます。小学5年生でしないといけないのかと尋ねたことがあります。すると、小学5年生が一番効果があるということでしたので、小学5年生を対象に、全ての教室でやります。</p> <p>それから、このいじめストップ推進事業も小学4年生を対象に、全ての学級で実施しましたがけれども、小学4年生でないといけないのかと聞くと、このプログラムを実施する方々は、小学4年生が一番効果があると言います。成長過程で色々なデータを取って、この年齢のタイミングで行うことが良いということです。確かに、後ほど報告させていただきますが、タイミングは逃したらいけないが、早すぎても、遅すぎてもいけない。そのタイミングの適時性だと私たちの分野では言っています。そのことからすると、市長が平成32年4月にはALTを全部入れるとおっしゃったのは、早すぎてもいけない。特に遅すぎてもいけないということで、これから5人分の予算でお願いするという発表になりましたが、あと10人必要となるわけです。平成32年の4月には揃えないといけないということを考えますと、逆算すると、次の派遣申請のときには、もう数が25人揃わないといけないということです。これがまさに適時性で、打ち出していただいたことは学校をあげて一緒に喜んでいくところです。色々な分野でまだまだ私たちとしてはお願いしたいことがあります。それには当然優先順位があります。一度にはできないというのは十分分かってはいますが、タイミングだけは逃さないようにすることは、子どもたちにとって大事なことだと思います。</p> <p>今、特に言われているのは幼稚園や保育所から上がってくる子どもたちと小学校1年生をつなぐところをどうするのか。具体的には今、始めているところです。また、中学校の卒業生を高校に送る、あるいは社会に出る人たちをどうするかが非常に大事なところだと思っています。これまでは、それぞれがきちんと責任をもってということでしたけれども、接続の部分だけは、やはり連続して育つ子どもたちです。そこも大事にしないといけないと思っております。それぞれ分野横断だと思っておりますが、そこらあたりも連携をさせていただけるようになりました。これからも子どもたちの育ちを、途切れなく見ていくのではないかと思っております。</p>
戸敷市長	<p>他にはございませんか。意見もいただきましたし、貴重な内容等についても触れていただきました。</p>
二見教育長	<p>もうひとつご紹介を兼ねてよろしいでしょうか。</p>

	<p>キャリア教育について、市内の3つの中学校を指定し、それぞれを拠点として、中心市街地、青島、それから郊外で、周りを含みながら行っています。</p> <p>宮崎西中の発表会に行ってきました。社長さんをお呼びすると、創業者のような方が来られて話をされる機会があるのです。そこにお二人の女性が来られていましたが、30歳前後で去年の11月に会社を立ち上げた方々でした。昔なら考えられないようなアイデアで会社を作りました、と、そんな若い女性が中学生に語っていただきました。これが、これからの子どもたちにとって非常にインパクトがあったと思います。これまでなかった会社ですけれども、その方法は、外国の観光客がたくさん入るインバウンドの時代に、外国の人たちに片っ端からインタビューをし、何が足りないのかということを下調べして、こんな会社があればということで立ち上げられました。会社を作るまでの発想とか、もちろん挫折経験だとか、苦労だとかも話していただきました。まさに、どこかに行かないといけないキャリア教育ではなく、学校が預かっている子どもたちに、地域ができるキャリア教育があるのだということです。</p> <p>これから大きな柱になっていくキャリア教育でありますし、新たな大綱の柱にも入れていただいています。キャリア教育という授業の時間はなかなかありませんが、地域の力を借りながらすれば十分できると思ったところであります。</p>
戸敷市長	<p>昨年、中学3年生3,000名に市の体育館に来ていただきました。今後は高校や親御さんにもお願いをしようと考えています。</p> <p>やっぱり宮崎も人口減少社会に突入しているのです。しかし、どこかで歯止めをかける施策を練っていかないと、将来的には極端に人口が減少します。大きいまちほど人口減少の割合が増えるわけです。そのことを考えて、キャリア教育により、国際感覚をもった人をしっかりと育成することで私たちの宮崎をつないで行ける、また、縮小しながらでも発展するようなことを考えていかないといけないのかなと思います。</p> <p>人口を増やすことは難しいですが、中には輝く人材がいるという前提で進んでいけば、全然違うのではないかと思います。このことを大事にしていかないといけないと思います。</p>
	<p>今いただいた内容等についてご理解がいただければ、これを全庁的に取り組むということで考えながら、正式に決定させていただこうと思っておりますがいかがでしょうか。</p>
委員	<p>はい。お願いいたします。</p>
戸敷市長	<p>続きまして、教育長から、いじめストップ推進事業の取組について、説明をお願いします。</p>
二見教育長	<p>これは今年度新たに事業化をしていただいたものです。ご報告のタイミングも欲しいなと思っていましたところです。</p> <p>後ろに作成したポスターを貼っております。これは毎年作ろうという思いであります。昨年度の3件の痛ましい事案がありましたので。絵は小学生が、標語は中学生が書いてくれたものを、合作してあります。小学生に絵の部門で、中学生には標語の部門で、みんなが関わって二度とああいうことがないようにということで作らせていただきました。</p> <p>あわせて、先ほど申し上げましたが、小学校4年生を対象に、全ての学級でワークショップ型のプログラムを導入させていただきました。</p>

た。その子どもたちの感想などの報告をさせていただこうと思っております。

あの痛ましい3件の事案については、逐一報告はさせていただいていましたが、1件は学校調査により、ご理解をいただきました。もう1件は詳細調査まで行き、ご理解いただきました。それから重大事態の案件は市長に報告書をお届けして、今、再調査委員会の方で検討が進んでいると伺っております。こういったことが二度とないように、万が一発生したら、誠心誠意対応いたしますが、そうならないようにするためにという思いが、このいじめストップ推進事業を構築した最初のきっかけでありました。

今年度の実施計画について少し述べさせていただきます。

いじめが起こる集団の雰囲気未然に防止するために、クラスの大多数を占める「傍観者」一人一人に、何ができるかを考え行動していくきっかけをつくることを目的として実施いたしました。

いじめの構造というのは4層と言われます。被害者、加害者、観衆（囃し立てるグループ）、1番外側に傍観者。1番多い層である傍観者の子どもたちが、実際に自分が受ける、あるいは見たときにどういう思いになるのかということも、ワークショップで体感しながら、あるいは自分事として受け止めるような形でさせていただいております。小学4年生全124学級に対して実施いたしました。

子どもたちと教員にアンケートをとりました。アンケート総数は3,811というかなりの数であります。そのなかに子どもたちの感想、先生たちの実感が見て取れます。

児童へのアンケート結果では、自分がいじめられそうになったとき、やってみようと思うことについて、半数以上が「いやだと言う」、「相談する」、「いじめる人たちから離れよう」、この3つが多かったようです。

また、いじめに気づいたとき、やってみようと思うことはどんなことかという問いについては、6割以上が「止める」、「助ける」と考えているようで、半数以上が「相談しよう」と考えていることが見て取れます。

その他、児童の感想や様子について、どのように行動すればいいかわかったという意見や、相手がいじめと思ったらいじめになるということがわかったという、感覚の変化が見て取れます。

また、勇気をもった、声をかけてあげたい、先生への相談はチクリじゃないから相談する、見ていても傷つける、といった意見があり、傍観せず、一歩踏み出すことができるのではないかと感じる回答が多くありました。

一方の教師へのアンケート結果を見ますと、自分が預かる子どもたちに指導できなかったようなプログラム、あるいは技術をもっておられる団体をお願いをしておりましたので、参加した135人全員が、大変役に立つと回答しております。

実際に私たちも経験しましたがけれども、毛糸が窮屈な状態で動くのか、なんの抵抗も無く、ストレスもなく動くのか、毛糸を使って人間関係を体感するといえますか、そういったことでも、目に見えないものを実感した、児童にとって新鮮な驚きだったという回答もありました。

子どもたちの行動が変わる、会話の端々に変化が見れるというのが私たちもやった結果が出てくればいいなという願いだったのですが、

	<p>そういう声も教員から聞こえております。</p> <p>日頃の行動や会話の端々、あるいは学習が生かされている、子どもたちのいじめについての考えが変わったなど、実際に担任がその後分かっているの、変化を見て取っているようでございます。</p> <p>子どもたちのいじめに対する考え方や、実際の行動の変化を教員が感じていること、これがやっぱり大きかったとっております。</p> <p>私たちは今、援助希求能力という言い方をしますけれども、自分がしてあげられなくても、あの人を先生助けてくださいよ、とか、困っている人がいたら周りに相談ができるとか、助け合えるとか、そういう態度・能力のことではありますが。それがワークショップのなかでは十分子どもたちに伝わっているのではないかと思います。</p> <p>やはり小学4年生が最も効果的だということが分かりました。適時性だと思います。教育委員も参加されています。ぜひこの小学4年生を対象に、ずっと続けていきたいという思いでおります。非常に効果はあると思います。</p>
戸敷市長	<p>いじめというのは本当に大きな事件にもつながりますし、社会問題にもなっています。根絶をしないといけないという思いがあります。これに早く気づき、また気付かせる子どもたち、そういうことをしっかりと教育のなかでも、家庭のなかでも考えさせないといけないのかなと思っております。</p> <p>この件について、アンケートも含めて柳田先生いかがでしょうか。</p>
柳田委員	<p>内容ですが、私がこの事業を拝見して素晴らしいと思ったのが、学級ごとに実施したということです。</p> <p>全校向けとか学年向けでというのはよく聞く話ですが、やはり30人前後に対して関わるのと、100人単位に話をするのでは、入り方が全然違いますよね。小学4年生、市内全学級でということ聞いた時、ものすごいことをするなと正直思いました。それだけの価値はあったと思います。なおかつそれを継続的にやっていくということはすごく大事なことかなとも思います。</p> <p>ひとつ注文するとしたら、この小学4年生の担任の先生たちは直接体験されていますが、学校全体で考え方を共有できるようにするため、他の先生方もこれを体験できるようにできるといいと思います。もちろん先生方同士の色々なコミュニケーションの中で伝わる部分はあると思いますが。宮崎市内に関して言えば、たとえ転校しようが、小学4年生の時あれやったよね、ということで、ずっとその効果は生きてくるわけです。年に1回でも2回でも、4月の学年当初などにおさらいとして学級担任の先生がやっていけば、その効果は継続します。そういう意味ですごく画期的な取組ですので、ぜひ今後も続けていただけるといいと思いました。</p>
戸敷市長	<p>畠山さんいかがですか。</p>
畠山委員	<p>宮崎市はいじめの件数が非常に多いという数字的な結果と申しますか、発表があっているわけですが、本当にいやだなあとか、小さな気持ちから全部数字にあげているというあたりから、この取組の深さというものが非常に高く評価できると思います。告げ口やチャクリではないと認識し、いじめられているということを先生に伝える。そういうことができるようになるための指導というのは分かっているようで、なかなかできないことだと思います。こういうワークショップを通じて、子どもたちがこれは告げ口じゃないんだ、と認識するとともに、相談することの大切さも感じられるということです。</p>

	<p>それから講師の先生にお訊ねしてみました。その時には2人で指導されておりました。2人でずっと指導されるのは大変ではないですかと伺ったところ、指導者をどんどん育成しております、ということです。おそらく先生方も、こういうワークショップのノウハウを年数を重ねていくなかで身に付けられ、こういう指導が自然とできるようになるのではないかと、これから楽しみな事業だと感じたところでした。</p>
戸敷市長	<p>そういうのを身に付けるのは大事なことですよね。 松野先生いかがですか。</p>
松野代表教育委員	<p>子どもたちにアンケートを取ると、宮崎市の場合、いじめが非常に多いということです。正直に子どもたちが全てを報告するからです。これが、ある県では報告しないこともある。こんなに差があるのはおかしいと文部科学省は言っているのですけれども。</p> <p>私はアンケートにそうなった状態を誰かに相談しましたかとか、誰かに助けを求めましたか、という項目を入れて欲しいと思っています。ただ、自分がいじめられた経験がありますか、だけで終わっては、次が見えないと思います。誰かに助けてもらいたいと言いましたか、などの項目を入れていただくと、これは調査を見た子どもたち全てが、これは先生に言ったかどうか答えないといけないと思うようになります。そういう意識付けを外から、大人の方から教師の方から働きかけることも大事ではないかと思えます。隠すよりも先生に言った方が解決につながるということを認識して、先生に言ったからまたいじめられるということはないということ自信をもって言って欲しい。相談すれば、私は変わって来るのではないかと思っています。泣き寝入りとか仕返しが怖いという気持ちをなくしていこうという風潮、そういったものを作り上げることが大事だと、最近特に感じております。</p>
戸敷市長	<p>それでは江草さん。</p>
江草委員	<p>毛糸を使っての体験でしたが、子どもたちが実際に手に持っていて、最初にぎゅって握ったときに動かない、という時の子どもたちの本当に動かないんだという表情と、毛糸が緩んだときにこうなるんだというほっとした表情が印象に残っています。これを受けたことで、私は児童館に勤めていて、小学4年生に話を聞いてみたりしたのですが、児童館の中でも子どもがいじめているということを知ったときに、その子たちにも自分がそうやってなったときはどう思うとか、他の学年の子たちにもそれを教えられるということは、すごくいい経験をしたと思いました。</p>
戸敷市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>根絶をしないといけないというのは当然ですが、まずは理解をさせていかないと、根絶できないという状況です。だから早いうちに、できれば学校に上がる前に家庭教育からいじめということへの理解度を高めさせることが必要だと思います。乳幼児教育のなかでもやらないといけないのかもしれないですね。ちょっとしたことが助長されて、これは何でもないとすると、それを子どもが理解できずにまた助長していくということになるので、根本をしっかりと直さないといけないと思います。</p> <p>件数が多いということは、あらゆる部分がいじめに該当するという認識を高めるということです。他にもどんどん出していいと思っています。件数が少ないからいじめがないというのはおかしい気がし</p>

ます。ちょっとしたことでも人を傷つけるような状況は、自分らしさが前面に出過ぎて相手を思いやる心がなくなってくるという状態だと思います。

いつも言っていますが、それを学校だけで是正するのはおかしいと思います。私は社会全体でやるべきと思っています。事業は小学4年生が対象ですが、どこかできっかけを作って改善していけば、いじめを少しでもなくしていけると思います。ゼロに近づけないといけないと思います。

これは大人の責任でもあり、家庭、社会全体の責任でもあると感じておりますので、積極的に展開しないといけないと思っています。

この結果は、親にも知っていただく必要がありますね。それから、このいじめ根絶の唱和というのは、ものすごくプラスになるのではないかと思います。

このように、常に心がけることが大事だと思います。子ども同士でも、感覚的にはこれはいじめではないだろうと思っても、いじめに該当するかもしれないわけですから。早く認識をさせて、対応するというのは大事なことでないでしょうか。そんないじめもあったのかという認識があとで出てくる状況もありますので、先生方も全てに気付くというのは難しいと思います。

しかし、これはお互いの学習の機会という部分でありますし、人間と人間のつながりのある絆社会づくりというのを前提としてまちづくりを進めようとしていますから、絶対あってはならないし、理解をしてもらわないといけないと思っています。

なくす前提でやっていますが難しいかもしれません。新たなものも出てきます。でもその時その時に、しっかりと対応することが必要だと思います。

ぜひとも皆さん方と、こういったことをしっかりと共有したうえで、一般行政でも反映をしていくような状況にしたいと思っています。教育委員会からもご指摘をいただくとありがたいと思います。学校に通っているのは3万6千人かもしれませんが、宮崎市は40万人いるわけですから、その全体の意識を高めるという流れでいけば、前向きさに繋がっていくと思っております。それ以外にも、こういった解消の方法があったりするのでしょうか。また、小学4年生が適時ということですが、中学校はどうなのでしょう。

二見教育長

やはり自分たちで浄化する力は、この檯中学校のいじめ根絶宣言のルールを見た時にあるのだと思いました。この五つのルールを作ったのは去年の9月のことで、10月から唱和を始めているということです。中学校の生徒会をメインにして、いじめ根絶・撲滅宣言をすることはたくさんありますが、ここまで具体的に言葉としているところは他にはないように思います。我々がクレドを読むのと一緒です。意識がその度に呼び起こされます。

特にルールの中の5つ目は「人を苦しめて手に入れるものは要りません」とありますが、これを子どもたちが作ったというのが力だと思います。

かなり議論をして作ったということを知りますと、中学生には、こうやって自分たちで浄化していくということを考える時間だとか、何かルール作りをするということが、非常に檯中のケースは参考になると思います。いいことだと思いますし、よく紙面にも取り上げていた

	<p>だいて、感謝をしたいと思います。中学生になると、結構解決力をもっています。それを引き出せるように、学校も生徒会と一緒にやってやるということは、大きなポイントだと思っています。</p> <p>それから、いじめの解消率についてですが、国が解消の考え方を少し変えました。全国的に、解決していないのに、解決したと思っていたということが結構あることによるものです。長期間、しかも本人がもう辛い思いはしていません、ということを確認できるまでは解消とは言わない、というくらい厳しく解消の考え方を整理しましたので、そういったことも学校と共有しながら、大事な大事なひとりひとりでありますので、肝に銘じてこれからも取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>必要な事業を組んでいただいていることについては、本当に心から御礼申し上げたいと思います。</p>
戸敷市長	<p>来年度もアンケートをするということですが、親にも相談をしていないというのも結構ありましたよね。</p>
二見教育長	<p>学年が上がったらなおさらです。</p>
戸敷市長	<p>中学生でこういう唱和をする状況を考えると、各学校に提案型でどうでしょうかという投げかけもいいかもしれません。</p> <p>ただ、それぞれの学校で違う思いで、自ら考えるというやり方をすると、また自分たちのものとして生かしていけるような気がしますね。</p> <p>大事なことで、これが死に至るような、命に関わるようなことにならないように、やっぱりみんなで守るべきですよ。また、そういうルールとか社会性を見出す子どもを育成しないといけませんよね。他に意見はありませんか。</p>
松野代表教育委員	<p>大変ありがたく思っているのは、部局を越えて連携を図っていくという姿勢です。これがとても大事だと思います。</p> <p>この部分は教育委員会関係だから、例えば市長部局でうちも子育てに関係あるんだけど、うちは遠慮しておこうとか、そういうことになってはせっかく上がるべき効果も上がらない訳ですから。部局間を越えて太いパイプでもって、お互い連携を図りながら、この問題についてやっていきましょうというような、電話一本でオッケーが出るようなそういうパイプを作られようと言われておりますので、大変これはありがたいと思っております。</p>
戸敷市長	<p>どうしてもその部局だけ解決しようとすると、他の部局までは情報も流れないということもあるので、全体で解決しないといけないところも結構あります。協議をすることでスムーズに、また結果もいい結果が出ることもあります。</p> <p>縦割りに横串を刺すということで、一般行政もしっかりとそれをやらないといけないという思いで書かせていただきました。</p> <p>市民の方にとっては縦でも横でも十二分に対応できると考えれば不満もないし、結果としてはスムーズに行くと思っておりますので、そういうことも考えていきたいと思っております。</p> <p>他に意見はございますか。</p> <p>江草さんは学校現場にもよく行かれているでしょうし、子どもとも接しているという部分で他にございませぬか。</p>
江草委員	<p>学校は子どもの学校がほとんどですが、仕事が児童館ということもあって、全学年の子どもたちと触れ合うのですけれど、児童館に来た時に様子がおかしいなと思ったときは話をじっくり聞いてあげると、</p>

	<p>こういうことがあって、学校でこういうことがあって、と言ってくれるので、そういう時には学校の先生に相談したらってという話はしますね。</p>
戸敷市長	<p>そういう相談できる場、気軽さというのはどこでもあることが必要でしょうね。</p>
江草委員	<p>子どもと分かり合える、そんなふうに話をもっていけるように頑張っていけたらいいと思っています。そう先生方も気付いてくださるといいなと思っています。</p>
戸敷市長	<p>先ほど教育長もおっしゃられていたように、高学年とか中学生になると意思を表示しないところで、変な方向に行く可能性もあると思います。</p> <p>どこにどういった目を当てていくか、これはファミリーサポーターというのを募集して、子育て世代にバックアップをしていただくという動きをしているのですが、この数を増やしていかないといけないと思います。</p> <p>シニアの方々の力というのはまだまだ優れたものがありますので、それを生かしていかないといけないと思っています。地域には、知恵もあり、まだ体力もありという部分でもったいない人材が相当いらっっしゃいます。寺子屋をされているところもあるし、ファミリーサポーターとして活躍されている方もいます。そこに地域で相談できるじいちゃんばあちゃんがいないかな、と思ったりしているところです。</p> <p>サポーターというか、地域でおせっかいは少しはしてくださいと言っています。自分たちの班で20世帯あれば、そのなかでおせっかいはいいんじゃないですか、というような雰囲気づくりが必要になってきているような気がします。これこそ社会教育であって生涯教育のなかで重要なことです。じいちゃんばあちゃんから言われたら反抗する子どもたちも少ないんじゃないかなと思います。親から言われると反抗してしまうような気がします。</p> <p>私の経験では、自分の息子に言うとは反発するけど、親同士で、お前がうちの息子に言え、俺がお前の息子に言うから、といったやり取りをして、ちょっと態度が悪いんじゃないかなという部分については言ったりした経験もありました。人の親の言うことは素直に聞いてくれるのです。毎日自分の親からガミガミ言われても大変ですけど、違う雰囲気を作るということも重要ではないかと思っています。そのことによって子どもを受け入れる、変わる、認識を高めるといった部分ではいい流れになるのかなと思ったりしています。</p> <p>みんなでやらないといけないと思います。先ほど言いました、縦割り横割り、縦横無尽にやらないといけないですよ。</p> <p>柳田先生、何かございませんか。全般的にでも結構です。</p>
柳田委員	<p>最初の話の繰り返しになりますが、憶中学校のことですけれども、先生方の大変さや大人の課題というものが、こういうことであると分かると思います。</p> <p>例えば憶中学校の場合も、生徒がどういう形で動いたのか分からないですけれども、こういうことができるような雰囲気を、先生方が作ることができている学校だということです、それはマニュアルがあるわけでもないですし、先生たちが生徒と付き合いながらのことになります。もし自然発生的に生徒から出てきたのであればものすごくいいことだし、そういう雰囲気を作っている先生たちはもっとすごいと思います。</p>

	<p>そういう意味で手探りでやっぱり私たちが考えてやっていかないといけないのかなと、すごく感じました。</p>
戸敷市長	<p>まとめをお願いできますでしょうか。</p>
畠山委員	<p>どの集団にもムードメーカーがいたりするもので、おそらく先生方にしても、いろんな場面にしてもそういう人たちをうまく見つけて接しながら、小学校、中学校の先生方はチームをまとめていらっしゃるのかなと思います。</p> <p>市長がおっしゃったように、自分の親の言うことはなかなか聞けなくても、担任の先生の言うことは聞けなくても、部活の先生の言うことは聞けるだとか、隣の先生とか前習った先生とか、それこそ色々なつながりが、子どもたちを、地域もそうですし、家族もそうですし、みんなで育ててるんだなということを今日の貴重な時間の中で感じたところです。</p> <p>学校にあがるまでの家庭のしつけであるとか、そういうことを親もできなくなっている時代ですし、子どもを育てながら親が学び、そして子どもはやがて大人となり、社会をつくり、その中で活かしていけるようになるといいと思います。本当に宮崎市は暖かく、心も気候も暖かく、本当に日本のふるさとだなと感じます。</p>
戸敷市長	<p>第二次宮崎市教育大綱については、子育ての充実をするということを前提としていますが、これも総合計画の中では戦略プロジェクトとして5項目の中に新たに入れたところです。</p> <p>そのことを部局横断的ということで、しっかりと行政の中でも連携をさせて解決できる、また進むということをやっていこうと考えております。</p> <p>コミュニティ形成というのは常に言われていますが、なかなかできないところをやるべきではないかと思っています。でない宮崎の人材が流出し、宮崎が衰退していくということに繋がっていくような気がします。そういうことを踏まえて、今回の大綱、総合計画の戦略プロジェクトが全て地方創生につながる、という考えで実践をしようと思っています。今日、ご意見もしっかり賜りましたので、今後に活かし、またそれを実践し、成果を出していく努力をしていきたいと考えております。</p> <p>今日は貴重な時間をいただきましたが、こういった形で皆さんからご意見があり、将来の展望にも繋がっていくと考えております。</p> <p>今回も、教育行政と一般行政が連携をしながら、そして40万市民が手を携えながらまちづくりに臨む、まちづくりはひとづくりということを常に唱和しながら頑張っていけないといけないという思いをしたところです。</p> <p>貴重な時間をいただきまして、また意見をいただきましたことを感謝申し上げます私の進行役を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。</p>
小泉教育局長	<p>それでは、以上をもちまして、平成29年度第2回宮崎市総合教育会議を終了いたします。</p> <p>長時間にわたり、ありがとうございました。</p>